

突然ですが、皆さんに思い出の曲はありますか？ 先日ラジオから流れてきたclassの「夏の日の1993」。この曲を聴くと一瞬で二十代に戻ります。少年隊の「君だけに」は中学時代、アンドレア・ボチェッリの「君と旅立とう」は結婚した時…。ある曲を聴けば何かのシーンがよみがえったり連想されたりします。匂いにも同じ効果がありますが、音楽を聴いて一瞬にして当時に戻るの、人間の脳の特徴でもあるそうです。音楽とイメージは密接につながっています。

友人の葬儀の出棺で、大好きだったというユーミンの「ひこうき雲」を演奏したのですが、数年たった今でもひこうき雲を見るたび彼女の笑顔を思い出します。参列していた当時まだ小さかった子どもたちも思い出すそうです。その曲を聴けば故人との思い出がよみがえってくるのですね。

ここ数年、家族葬や一日葬、無宗教

民報 サロン

人生最期の一曲

鈴木 恵



葬、密葬、直葬と、これまでの一般葬から形が変わってきています。では、葬儀を行う意味とは何でしょうか？ 亡くなった故人をあの世に送り届けること？ それだけではないのです。葬儀を行う意味は、社会的な処理や遺体の処理、心理的な処理、宗教的処理などがあり、それらを理解すると周りの

いる間に食事や洋服、趣味など常に選択する人生を歩んでいると思いませんか？ それぞれ自分の好きなものを選んで生活していますが、自分の葬儀は自分で仕切ることができず、自分の好みが全く反映されません。亡くなったから葬儀までの短い時間で遺族が決めることはたくさんあります。故人の希望が書いてあることで葬儀社との打ち合わせをスムーズに進めることができますし「そんな遺影使わないで」と、お空からヤキモキしなくてよくなります。この仕事をしていると自分の葬儀をイメージします。お花に囲まれた遺影の前にピアノやエレクトーンを置いて、お別れに来てくれた音楽仲間が自由に演奏し、飲み物片手に私の思い出話を楽しくしてくれたらいいなと思っています。そして「君と旅立とう」を娘に弾いてもらえたら最高かな。あなたの思い出の曲は何ですか？（いわき市石塚町、エモーション代表）

方々のためにも大切な儀式ですので、簡素化だけを求めずに執り行ってほしいです。このお仕事をしていると一人に明日の確約はない」ということを痛感します。残された愛する人たちが困らぬように準備するのも大切なことです。つい最近まで死の話はタブーとされていましたが、今は「終活」もメ

く記載していただき、私たちは生きておくことができます。残された家族のためだけではなく、実は自分の終わりを考えることでこれからどう生きていか人生を見つめ直す良い機会にもなります。家族が元気なうちに皆で話合ってみるのもいいですね。葬儀形式をどうするかも、お忘れな